

第10章 標準原価計算

学習の要点

1. 標準原価計算は、すべての原価要素について価格や消費量を科学的・統計的調査によって研究し、あらかじめ製品の標準原価を算定して、この標準原価と実際原価との差異を分析し、製造業の原価管理に役立てるために行う。
2. 標準原価を算定するには、製品1単位当たりの標準直接材料費・標準直接労務費・標準製造間接費を定め、この三つを合計する。

$$\text{標準直接材料費} = \text{標準単価} \times \text{標準直接材料消費量}$$

$$\text{標準直接労務費} = \text{標準賃率} \times \text{標準直接作業時間}$$

$$\text{標準製造間接費} = \text{標準製造間接費配賦率} \times \begin{array}{l} \text{製品単位当たりの配賦基準の標準数値} \\ \text{(たとえば標準直接作業時間数)} \end{array}$$

$$\text{(注) 標準製造間接費配賦率} = \frac{\text{一定期間における製造間接費の予定額}}{\text{一定期間における予定操業度 (たとえば直接作業時間)}}$$

3. 原価差異の算定 (標準原価と実際原価との差異)

- (1) 直接材料費差異

- ① 価格差異 = (実際単価 - 標準単価) × 実際消費数量

- ② 数量差異 = 標準単価 × (実際消費数量 - 標準消費数量)

- (2) 直接労務費差異

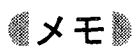
- ① 賃率差異 = (実際賃率 - 標準賃率) × 実際直接作業時間

- ② 作業時間差異 = 標準賃率 × (実際直接作業時間 - 標準直接作業時間)

- (3) 製造間接費差異

$$\text{製造間接費差異} = \text{実際製造間接費} - (\text{標準製造間接費配賦率} \times \text{許容作業時間})$$

$$\text{(注) 許容作業時間} = \text{製品1単当たりの標準直接作業時間} \times \text{実際製造数量}$$



演習コーナー

問題33

1. 次の資料により、直接材料費差異を算定し、価格差異及び数量差異を計算し下記の解答欄に記入しましょう。

実 際 単 位	¥520	実 際 消 費 数 量	840個
(実 際 原 価)	¥436,800)		
標 準 単 価	¥500	標 準 消 費 数 量	800個
(標 準 原 価)	¥400,000)		

解 答

直接材料差異 = ¥ () _____ 【 】

{ 価格差異 = ¥ () _____ 【 】

 数量差異 = ¥ () _____ 【 】

(注) ()には「±」を、【 】には「有利」・「不利」も記入してください。

メモ

演習コーナー

問題34

1. 次の資料により、直接労務費差異を算定し、賃率差異及び作業時間差異を計算し下記の解答欄に記入しましょう。

実 際 賃 率	¥690	実際直接作業時間	3,800時間
(実 際 原 価	¥2,622,000)		
標 準 賃 率	¥700	標準直接作業時間	3,750時間
(標 準 原 価	¥2,625,000)		

解 答

直接労務費差異 = ¥ () _____ ()

{ 賃 率 差 異 = ¥ () _____ ()

{ 作業時間差異 = ¥ () _____ ()

(注) ()には「±」を、【 】には「有利」・「不利」も記入してください。

メモ

問題35

1. 次の資料により、下記の問題に答えましょう。

- 当工場の年間の製造間接費予算 ¥6,000,000 (月間 ¥500,000) である。
- 当工場の年間の期待実際操業度は12,000直接作業時間 (月間1,000時間) である。
- 当月の実際直接作業時間は940時間であった。
- 当月の標準直接作業時間は900時間であった。
- 当月の製造間接費実際発生額は ¥486,000 であった。
- 当社は基準操業度として、期待実際操業度を採用している。

(1) 製造間接費の標準配賦率はいくらですか。

(算式)

(2) 製造間接費の標準配賦額はいくらですか。

(算式)

(3) 製造間接費差異はいくらですか。(有利・不利も記す)

(算式)

(4) 実際原価計算の場合の予定配賦額はいくらですか。(配賦率は同じものとする。)

(算式)

(5) (4)の場合、製造間接費配賦差異はいくらですか。(有利・不利も記す)

(算式)

演習コーナー

問題36

1. 次の資料により、直接材料費差異（価格差異、数量差異）と直接労務費差異（賃率差異、作業時間差異）を求めて、製造に関する仕訳をしましょう。ただし、標準原価に対して有利・不利を（ ）に記入してください。

● 製品1個当たりの標準原価

標準直接材料費 8 kg × ￥98 = ￥784

標準直接労務費 6 時間 × ￥210 = ￥1,260

● 当月製品完成高 800個（月初、月末とも仕掛品はない）

● 当月実際消費高

直接材料費 6,200kg × ￥100 = ￥620,000

直接労務費 4,850時間 × ￥200 = ￥970,000

(1) 直接材料費差異

価格差異 ￥ ()

数量差異 ￥ ()

合計 ￥ ()

(2) 直接労務費差異

賃率差異 ￥ ()

作業時間差異 ￥ ()

合計 ￥ ()

(3) (仕 訳)

材料の消費		
労務費の消費		

問題37

1. 当社は、製品Xを量産しており、製造間接費に関するデータは、次のとおりです。

(予算および標準データ)

- 月間の正常(基準)直接作業時間 10,000時間
- 上記の稼働時間における製造間接費予算 500,000円
- 製品X 1個当たりの標準直接作業時間 4時間/個

(当月の実績データ)

- 製品Xの生産

月初仕掛品 なし 当月仕込量 2,500個 当月完成量 2,200個
 月末仕掛品 300個 (進捗度50%)

- 実際直接作業時間 9,500時間
- 実際製造間接費発生額 480,000円

製造間接費の製品に対する配賦基準は直接作業時間であり、その予定配賦率と標準配賦率とは等しいものとして、上記の資料にもとづき、下記の□に、適切な数字を計算し記入しましょう。

(1) 実際原価計算の場合

製造間接費

実際発生額	480,000円	予定配賦額	□ 円
		配賦差異	□ 円

(2) 標準原価計算の場合

製造間接費

実際発生額	480,000円	標準配賦額	□ 円
		配賦差異	□ 円

(3) 予定(標準)配賦率(1時間あたり) = □ 円/時